

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和8年度第1回）

○日時 令和8年5月27日（水） 午後6時30分～午後7時55分

○場所 永山公民館 2階 講堂

○出席者 ・委員15名（50音順） （欠席者1名）

入谷委員、葛西委員、紙谷委員、岸本委員、北村委員、木村委員、
工藤委員、桑島委員、島田委員、土田委員、野坂委員、福島委員、
松田委員、村井委員、安友委員

・アドバイザー5名

旭川市教育委員会3名

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会1名

旭川市立大学1名

・事務局職員3名

永山支所長、同主幹、永山公民館長

・行財政改革部公共施設マネジメント課職員1名

・市民生活部まちづくり協働課職員1名

○会議の公開・非公開 公開

傍聴者 なし

○会議資料

・会議次第

・永山まちづくり推進協議会委員名簿

・旭川市まちづくり推進協議会設置要綱

・永山まちづくり実行委員会会則

・永山まちづくり推進協議会の会議ルール

・永山まちづくり推進協議会（まち協）とは

・令和8年度のスケジュール

・永山まちづくり推進プログラム

・令和8年度地域活動計画

・地域のチカラ（令和8年4月発行）

※当会議録中では、次のとおり表記する。

・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開会

2 市民生活部長挨拶

市民生活部長が欠席となったため、事務局が挨拶文の代読を行った。

3 委員、アドバイザー、事務局の紹介

4 説明

- (1) 地域集会施設の活用に関する実施計画（改訂版）の策定について
（行財政改革部公共施設マネジメント課）

計画の概要と今後の取組等について説明。引き続き協議会委員に意見を求める予定であるため、協力をお願いしたい。

- (2) 地域自治推進ビジョンの見直しについて（市民生活部まちづくり協働課）

担い手不足や負担増加といった課題への対応を盛り込み、持続的な地域活動を可能にすることを目標として改訂した。

また、今年度から、地域課題を解決するためのまちづくり実行委員会が取り組む活動も旭川市民の日まちづくり賞の対象となったことから、ぜひ応募いただきたい。

5 会議の運営方法について

- (1) 役員選出

旭川市まちづくり推進協議会設置要綱及び永山まちづくり実行委員会会則に基づき、役員選出を行った。

協議会会長の事務局案が出席委員の拍手により承認され、葛西委員が会長に選出された。

会長の指名により協議会副会長に工藤委員が選出。

実行委員会会計に入谷委員、同監査に福島委員が推薦され、出席委員の拍手により承認された。

- (2) 会議ルールの確認について

会長、副会長の挨拶の後、事務局から資料4 永山まちづくり推進協議会の会議ルールについて説明。

6 意見交換

- (1) 地域まちづくり推進協議会（まち協とは）～（4）令和8年度 地域活動計画について、事務局から資料に沿って説明。

- (5) 永山地域の課題と取組について

委員からの発言の主なものは次のとおり。

（会長）

新たにまち協の事業として実施してみたいことなどありましたら、お話しください。

3月に、永山南地区きづな連絡協議会が主催した、「女川いのちの石碑」の活動を紹介するセミナーが行われ、テレビや新聞にも取り上げられました。このセミナーは市民委員会、地区社協、民生委員児童委員などが関わっておられると聞いています。

(委員)

このセミナーで恐れ入ったのは、当時12歳の中学生が生徒会で話し合い、ここは安全だという場所に石碑を立てようとなり、募金を集めて見事にやり遂げたこと。中学生でもこんなことが実現できるんだと、目頭が熱くなりました。

(委員)

私どももこのセミナーを手伝わせていただき、素晴らしい話を聞いて、皆さんとのきづなを大事にしていきたい思いが強まりました。

(委員)

認知症 SOS ネットワーク活動が立ち上げから3年目となりました。実績が積み上がり、登録者は12人となりました。

あと、地域の方のお話を聞くと、年齢が上がるにつれて、家にこもる傾向が多くなり、電球の交換などちょっとした頼み事が増えてきます。地域に住んでいる人が地域で長く生活できるような環境づくりと、地域活動参加へのきっかけづくりに力を入れていきたいです。

(会長)

SOS は永山まち協実行委員会の事業から独立して、活動が続いていますね。

(委員)

三和会館で実施している、高齢者のしあわせクラブに一人でも多くの方に集まっていただけるよう、考えているところです。

(委員)

地域の活性化を図っていこうという気持ちは、皆様と同じでございます。特に永山は、高齢化が進んでいますが、そういった中でも、社会福祉協議会や地域包括支援センター、市民委員会など様々な団体と密に連携しながら進めていきたいです。

地域に3か所ある高齢者向けふれあいランチには37名の委員がボランティアとして参加しています。

(委員)

永山地域は、教育関係が充実していると感じています。それと同時に福祉に関しても、旭川市立大学の協力も得ながら進んでいる地域だと思っています。私もこれまで色々な経験をしてきました。1年間の間に2件孤独死があったことから、これではいけないと、ふれあいサロンが始まった。私も色々な面で、協力していきたいと考えています。

(委員)

除雪と移動で困っているという声が多いです。

元気なうちはできていた除雪も難しくなり、近くにご家族がいないとなると、家には住んでいられなくなり、施設へという方がいらっしゃる。除雪ボランティアの活動をしてくれる人を増やすため、社会福祉協議会もがんばっておられるが、マッチングに時間がかかっています。

また、免許返納などで車を手放した方が、買い物やサークル活動を行う会場まで行く手段がないという話もあるので、そういったところに支援ができないかと感じています。

(会長)

かつてこの地域ではコミュニティバスが運行していたのですが、残念ながら利用者が少なく、廃止になりました。でも、また考えてみてもいいかなと思っています。

(委員)

平成30年に協議会委員を務めていたことがあります。その時は、メディアカルネットワークや防災についての取組に関わらせていただきました。

今年度の予定を見ると、地域福祉に関する内容が非常に多いので、我々としてもここに協力させていただく場面が多いのではと思っています。また、各団体の方々が取り組まれ、この事業に参加する方々が増えることが、地域のつながり、支えあえる体制づくりにつながると感じました。

(委員)

屯田まつりに関して、補助金申請の協力など事務局として携わっています。今年は40回目を迎えるということで、記念事業として色々な企画を考えているところです。これから2年間、皆様と連携しながら永山地区の活性化に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(委員)

永山魅力発見隊で、何度か関わっておりました。去年は参加者が少し少なかったようですが、一定数の人数が集まれば、色々な体験することができるので、喜んでいただけたと思います。また、携わっている学生の成長にもつ

ながっています。ほかにもボランティアで様々な受け入れをしており、学生も慣れていきますので、できるだけ協力していきたいと思っております。

(委員)

私たちの活動地域は道道から郊外までなのですが、今年度は4月に1回、5月に1回の火災が発生しています。幸いけが人はいませんでしたが、いずれも原因がコンセントからの出火と聞いております。引き続き注意喚起の広報を進めていかなければと感じております。

(委員)

スープの冷めない“きずな”づくり事業への参加を通して、地域との関わりが少ない高齢者が一定数いるということを感じました。今は、町内会活動の縮小や、加入者の減少、近所づきあいの希薄化が気になっているので、協議会が地域の人々の安心を支えていけるよう、活動に貢献できればと思っています。

(委員)

研修で示されたアンケート結果から、除雪や排雪、移動手段、買い物で困っている高齢者の方がたくさんいることを知りました。そういった地域で困っている人を支える活動を子どもに伝えていくことで、将来地域活動やボランティアに興味を持つ若い世代が増えたらいいなと思い、地域のオタスケマン事業に興味を持ちました。

(会長)

アドバイザーの皆様からもお話を聞かせてください。

(アドバイザー)

まずは、永山地域の子どもの育成に御尽力いただき、誠にありがとうございます。私たちは、地域コーディネーターという立場で、学校を通じて地域の方々との橋渡しをしています。学校からこういう事業をやってほしいというお話があれば、皆様のお力をお借りしたいです。

(アドバイザー)

昨年度まで、永山中学校区をモデル地域としておりましたが、今年度から2年間、永山南中学校区がモデル地域となりました。引き続きよろしく願います。

担い手不足については、子どもたちがそういった活動を知らない、大人になって必要性を感じないということが原因ではないかと感じます。子どものうちから地域に関わることによって、当事者意識を持ってもらうという

のが一つの考え方です。そのいい例が、地域のオタスケマン事業だと思っています。

本日、小学校から放課後の子どもの居場所、学習支援について相談がありました。まち協事業に子どもの学習支援事業がありますが、校区外のため利用ができない。もしそれぞれの実行委員会で話す機会がありましたら、取り上げていただければありがたいです。

(アドバイザー)

永山南小4年生の福祉教育に関わりましたが、子どもたちが、地域福祉を進めていく大人の背中を見る機会が減っていると感じました。

先ほどお話のありました、ちょっとした困りごとに対応するために、「できるよ」という人が手伝いに行ける、そんなシステムが作れればと思っています。

(アドバイザー)

他の地域では、有償ボランティアが増えています。無料だと遠慮する方もいますが、少額でも有償とすることでうまくいくという研究結果もあるんですね。

永山地域は高齢化率が高いですが、子どもと高齢者がつながるという提案はとても素晴らしいと思います。そこに学生も参加できる機会を設けていただければ、小中高と大学、地域の皆さんと一緒に活動できるかなと思いました。

(アドバイザー)

現在、色々なサービスがありすぎて、選べないという課題を感じています。

この永山でも似ているサービスが散在しているように見受けられるので、類似のサービスはグループ化し、分かりやすく整理して示すことができればと思いました。

(委員)

間口除雪と玄関から道路までの除雪について、これまで有償ボランティアがバラバラに活動していましたが、何とか一本化できないかこの地域では、今年の冬から取り組もうとしています。そして、いずれ各地域へも広げていけたらと考えています。

7 その他

事務局からお知らせと謝礼支払についての説明を行った。

8 閉会の挨拶

工藤副会長から挨拶があった。